

受賞のことば

市場の働きへの信頼と懐疑

東京大学教授 楡井 誠

本書は、景気循環が市場で内的に発生する条件について考察した研究書である。第 1 部では、現代のマクロ経済学における標準的な景気循環理論を紹介する。その理論は、フォワードルッキングな金融政策やマクロ財政政策を策定するために、政策担当者間で国際的に共有されている。第 2 部では、著者が博士論文以来追究し、国際学術誌上で問うてきたテーマを統一的に論じた。

第 1 部は、世界のマクロ経済学者が共有する、いわば共同作業仮説を提示している。他の科学と同様に経済学においても、研究者の日々の取組みを分かりやすく説明するのは簡単でない。それは、議論の前提となる土台自体がかなり専門的なためである。そのため第 1 部では、1970 年代以降に一応の収束をみた景気循環理論をまず概観する。理論の叙述にあたっては、読者が数式を追わなくても直観的に理解できるよう極力工夫した。

第 2 部は、市場の働き自体がマクロ経済の不安定性の原因となる条件を問う。この問いは、市場機能への懐疑心の強い日本の論壇では、ひょっとしたら抵抗なく受け入れられるかもしれない。しかし、市場の働き自体に揺動の原因があるという見方は、マクロ経済学の作業仮説において一般的ではない。経済学の本来の眼目はむしろ、均衡へと向かう市場の力にある。著者自身も教壇ではそのような市場の働きの解説に注力する。本書の問題関心は、市場の働きへの信頼と懐疑の拮抗から生まれた。

経済学は普遍性を求めるので、日本にのみ成立する理論というものはない。市場を抽象化して考察し、その比較の中に日本経済の特性が見出されなければならない。そのため経済学では、とりわけ方法論において国際性が必要である。しかし、それぞれの地域や時代の特性は、何が問われるべき問いなのかを深く規定しうる。実際、国際的なまとまりとしての経済学は、息の長いローカルな思索が共有されることで展開している。本書がそのような、ローカルな思考とグローバルな共有の一端を担えれば嬉しく思う。

にれい まこと

1994年東京大卒、02年米シカゴ大からPh. D. (経済学)取得。米ユタ州立大助教授などを経て、19年から東京大大学院経済学研究科教授。71年生まれ。

